JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	"研究・技術計画"のディシプリンを問う ： 講演資料
Author(s)	宮川，公男
Citation	年次学術大会講演要旨集，10: 300-302
Issue Date	1995-10-05
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5473
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

シンポジウム

「“研究・技術計画”のディシプリンを問う」

－講演資料－

宮川 公男（麗澤大学）

新旧パラダイムの比較

旧	新
well-structured problem	ill-structured problem(messy)
problem given	problem structuring
value given	value clarification
facts-value dichotomy	facts-value interaction
value neutral	value-laden
instrumental	consummative
positivism	post-positivism
analytical	integrative
root	branch(muddling through)
mechanistic-atomistic	organic-systemic
implicit assumptions	assumption surfacing
linear	cyclical with feedback

root method と branch method

合理的・包括的（root）	逐次的・制限的比較（branch）
1a　価値あるいは目的の明確化が，代替的政策の経験的分析と明確に区分され，かつそれに先行する．	1b　価値目標と選択と必要な行動の経験的分析とが，互いに明確に区分されず，からみあっている．
2a　政策形成は手段・目的分析によって行われる．第一に目的が分離され，次いで目的を達成するための手段が求められる．	2b　手段と目的とが切り離せないものであるから，手段・目的分析はしばしば不適当であり，効果も限られている．
3a　“よい”政策であることのテストは，それが望ましい目的に対して最も適切な手段であることが示されることである．	3b　“よい”政策であることのテストは多くの分析者がそれに同意できるということである．（一致した目的に対して最も適当な手段であるということについての同意はなくともよい．
4a　分析は包括的である．すべての重要な関連要因が考慮される．	4b　分析は大幅に制約されたものである． 1）　おこりうる重要な結果も無視されることがある． 2）　重要な代替的政策も無視されることがある． 3）　影響を受ける重要な価値も無視されることがある．
5a　理論に大きく依存することが多い	5b　逐次的比較によることから，理論に頼ることは大幅に少なくなる．

宮川公男『政策科学の基礎』，東洋経済新報社　1994年，159ﾍﾟｰｼﾞ。

政策問題の構造と特徴

問題の要素	問題の構造
	良 ←→ 悪 良構造　半構造　悪構造
意思決定者	1人，少数←→多数
代替案	少数，限定的←→多数，無限定的 （クローズド）　（オープン） 明確←→不明確
目標，価値	明確，単一←→不明確，複数 コンセンサスあり←→コンフリクト
結　果	確実←→不確実
確　率	計算可能←→計算不可能 既知←→未知
問題解決の焦点プロセス	解の導出←→問題の構造化 直線的，一回限り←→模索的，反復試行的
選択基準	最適化←→満足化

宮川公男『政策科学の基礎』，東洋経済新報社　1994年，216ﾍﾟｰｼﾞ。